

# 胸腹部病変の診断における息止め PET/CT 検査の至適撮像条件と臨床的有用性の検討

## 【研究対象者の方々へ】

本研究は平成 20 年 2 月 1 日から平成 21 年 7 月 31 日の間に九州大学病院放射線科にて息止め PET/CT 撮像を実施された方を対象に研究させていただきます。もし対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

## 【はじめに】

PET/CT 検査は X 線検査や CT と組み合わせることでより正しい診断ができることから多くの癌の診断に利用されています。しかし PET 検査は撮影に数分間を必要としますので、撮影中の身体が動くと画像のボケやブレが生じて診断精度が落ちるといわれています。特に問題となるのは呼吸による動きです。最近の PET/CT 装置は比較的短時間の撮影ができるようになっていますが、呼吸止めて撮影するには複数回の撮影を加算するなどの工夫がなされています。今回の研究は、呼吸を止めて短時間で撮影する方法について最も優れた結果が得られる条件を見つけ出し、従来の検査方法よりもどの程度優れているかを明らかにしようと考えています。

## 【研究内容】

九州大学病院放射線科にて実施された息止め PET/CT 検査の画像について、画像の質、撮影された場所、病変部の大きさなどを通常の息止めしない PET/CT 検査と比較して最も優れた条件を見つけ出します。今回の研究対象は、人体から採取した試料を用いない既存資料（PET/CT 画像および病理診断報告書のコピー）のみを用いる観察研究であり、臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省、平成 20 年 7 月 31 日全部改正）第 4 インフォームドコンセントの 1 (2) イ、により、被検者からのインフォームドコンセントを受けることは要しませんが、個人情報保護には十分留意しております。

## 【研究期間】

研究機関は平成 23 年 3 月までと考えております。

## 【医学上の貢献】

この研究により呼吸性移動の影響を受けない PET/CT 画像の撮像条件を明らかにすることにより、短時間で無駄のない効率的な撮像とより正確に診断が可能になると期待されますので、引いてはより適切な治療方針を選択できるようになると考えられる。

## 【研究機関】

九州大学医学研究院保健学部門	・教授	・佐々木雅之
医学研究院臨床放射線科	・教授	・本田 浩
医学研究院保健学部門	・准教授	・藪内英剛
大学病院放射線科	・助教	・阿部光一郎、馬場眞吾
大学病院放射線科	・医員	・澤本博史、田邊祥孝
大学病院放射線部	・副診療放射線技師長	・高木良三
医学系学府医学専攻	・大学院生	・丸岡保博
医学系学府保健学専攻	・大学院生	・坂口裕一、張 鉄嬌
医学部保健学科	・学生	・光元勝彦、立谷洋輔

## 連絡先：

九州大学医学研究院保健学部門 佐々木雅之

〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1

TEL (092) 642-6746

E-mail: msasaki@shs.kyushu-u.ac.jp